

## 当事者意識を持った生徒心得改正を 勝負は後半にあり

第1回の学校評価保護者自由記述に対する回答が学校から出されました。その中で、生徒心得に関して、保護者から「無意味な校則は見直すべきだと思います。時代や個人を尊重すべきかと思っています。」とありました。この意見に私も賛成です。学校からの回答は「生徒会と共に生徒心得を見直しを進めているところです。保護者の皆様にも話し合いに加わっていただくことを考えています。」との回答がありました。

校則の歴史をさかのぼると、1970年代から校則が次第に細くなり、厳しい校則指導で学校を落ち着かせる。荒れた生徒を出さない。このような考え方が主流になった経緯があります。「服装の乱れは心の乱れ」という間違った名言が広がったのです。学校は、この呪縛にとらわれている限りどんなに校則を見直して簡素化しても元に戻るだけだと考えます。

禁止事項に黙って従う子供を求める指導よりも、校則の規定を明確にし、生徒が理解できるまで説明したり、社会の仕組みを学ぶ学習の機会を設けたりすることが必要と考えます。考えてみれば、理不尽に規則にも黙って従い、上司の命令に疑問を持たないのは、工業化社会の中で求められた人間像です。これからの社会では、疑問を持たずに指示されたことをだけを求める人間は、人工知能に淘汰されていきます。求められる人間像も転換期を迎えています。

中学生の時期は、物事に対してルーズになりがちです。年齢的にもそういう時期だと思います。自転車の乗り方、服装・髪型、シャツの着方、挨拶の仕方、友達との関わり方、指導を受ける皆さんはなぜこのルールを守るのかを十分に考えて当事者意識を持って、考え、責任をもって生徒心得を決めなければならないと考えます。

今までの、南犬飼中学校の生徒心得は無理を強要しているようなものだったのでしょうか。当たり前前のことを、当たり前に行って生活していれば、無理なく自然に、正しい身なり、正しい行動になっているはずです。冷静に考えれば学校のルールやマナーは無理を強制している訳でもないことが理解できると思います。学校は、社会人としての基本的なルールやマナーを学ぶ場所です。そして、疑問があれば声を上げ改善していく場所なのです。

生徒、保護者、教職員、地域が当事者意識を持って決めたルールは守る。守れなければ、守ることを学ぶ。もし、守らないのであれば、それはルールに問題があるのではなく、守らない人のわがままに原因があるのです。ここに疑問の余地はありません。守らない人が楽しくて、守る人が嫌な思いをする社会や学校で良いはずがありません。したがって、当事者意識を持って現在のルールやマナーに関して考えることが大切なのです。

皆さんをお願いします。来年度の南犬飼中学校のより良い雰囲気を決めるのは、2年生のこれからにかかっています。今の皆さんは、入学してからこれまで総合的に見てもよく頑張ってきたと思います。これからの後半戦、南犬飼中生の模範となり、自らが当事者意識をもって、より良い南犬飼中学校にするにはどうしたらよいのかを考え生活してください。

勝負は後半にあり。

主任 福原 亨

## 11月の行事予定

- 15日(月) 避難訓練
- 15日(月) 専門委員会
- 24日(水) 期末テスト～25日(木)



## お知らせ・お願い

- 部活動の終了時間について、11月は17:00終了、17:15が完全下校です。
- 日没が早まっています。今後も一層交通ルールを守るとともに十分注意して登下校してください。

